

- 第①②面 アルピニスト 野口 健氏×金沢大学 香坂 玲氏
- 第③面 気候変動
- 第④面 省エネルギー〈政策〉
- 第⑤面 省エネルギー〈機器〉
- 第⑥面 水処理/土壌汚染対策
- 第⑦面 フロン類対策/自動車環境技術
- 第⑧面 スマートコミュニティー
- 第⑨面 再生可能エネルギー-1
- 第⑩面 再生可能エネルギー-2
- 第⑪面 水素社会/熱利用
- 第⑫⑬面 廃棄物処理・3R/都市鉱山開発
- 第⑭面 極地研究の現場から/ESD



アルピニスト 野口 健氏

グリーンイノベーションの 実現に向けて

地球温暖化、森林破壊、海水や大気の汚染、生態系の破壊など環境問題はあまりに多様だ。その原因や被害は複雑に絡み合うもので、その対策は世界規模で取り組まなければならない。爆発的に増える世界人口を背景に生産活動が急拡大する中、目をそむけることのできない危機も生まれている。持続可能な地球社会へ向け、果たして人類はどんな選択をするのか。いまグリーンイノベーションへの歩みを加速することが求められている。

現場で見る、知る、行動する環境活動

ヒマラヤや富士山での清掃をはじめ多様な環境活動を自ら開拓してきたアルピニスト野口健氏。今は、地球の姿はどう映っているのか。今後、環境社会へのアプローチをどんな方向で考えているのだろうか。生物多様性の専門家である金沢大学准教授の香坂玲氏が聞いた。

富士山世界文化遺産登録に思う

「昨年、富士山が世界文化遺産に登録されました。野口さんは富士山の美しい側面を知る一方で、「ゴミ問題など日本の諸島の世界遺産登録を目

指してエコ・ツーリズムを推進する委員を務めてきました。当時は石原都知事時代。知事に何のたうことをやらなくて世界遺産になってしまった。その前に決まり事を作るの、自然を守るためと目的が明快でした。僕たち委員は何度も島へ通い、10年かかってようやく島民も納得した形で入島規制(レンジャーやガイドの育成など細かなルールや人材づくり)をしてき

ました。それから世界遺産になりました。富士山はそういうことをやらなくて世界遺産になってしまった。その前に決まり事を作るの、自然を守るためと目的が明快でした。僕たち委員は何度も島へ通い、10年かかってようやく島民も納得した形で入島規制(レンジャーやガイドの育成など細かなルールや人材づくり)をしてき

ました。それから世界遺産になりました。富士山はそういうことをやらなくて世界遺産になってしまった。その前に決まり事を作るの、自然を守るためと目的が明快でした。僕たち委員は何度も島へ通い、10年かかってようやく島民も納得した形で入島規制(レンジャーやガイドの育成など細かなルールや人材づくり)をしてき



金沢大学 准教授 香坂 玲氏

(2面に続く)

三井物産
www.mitsui.com/jp

おじいさんたちが植えた木を、
わたしたちが使う。
わたしたちが植える木を、
みらいの孫たちが使う。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化したこの50年。いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、生活に取り入れて、自然を思いやる“木づかい”の毎日へ。何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。そして、何十年後かのために、あたらしく植える。それは、森林を代謝させ、健康に保ち、みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。

三井物産は、次世代のことも考えながら、「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、持続可能な森づくりに取り組んでいます。

木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。



高度成長期の幕開け

コンビニエンスストア初上陸

国産パソコン登場

バブル時代到来

携帯電話急速に普及

木づかい運動本格化

高度成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。



全国70か所以上、約44,000ha。100年以上、大切に守り育て続けています。